

# **TUP900**

## **Star Raster Mode Printer Driver Manual**

For Windows 2000/XP/Vista 32bit

Rev. 1.0

Date : 2009/2/25

# 目次

はじめに .....	1
1. インストール .....	2
1.1 USB 以外のインタフェースの場合 (Windows 2000/XP/Vista 32bit).....	2
1.2 USB インタフェースの場合 (Windows 2000/XP) .....	2
1.3 USB インタフェースの場合 (Windows Vista 32bit) .....	2
2. プリンタドライバの設定方法.....	3
2.1 ラスター印刷設定.....	4
2.2 ロゴの設定 .....	7
2.3 複写 .....	9
2.4 ETB 機能 .....	12
2.5 用紙サイズ.....	13
2.5.1 定義済み用紙サイズ.....	13
2.5.2 ユーザー定義用紙サイズ .....	14
2.6 2色印字、特殊感熱紙などの設定 .....	15
3. 使用方法 (補足、詳細) .....	16
3.1 ページ／文書のカッター設定 .....	17
3.1.1 レシート印刷の一般的な設定 .....	17
3.1.2 チケット印刷の一般的な設定 .....	17
3.1.3 ブラックマーク用紙での印刷の一般的な設定.....	17
3.2 ロゴの生成と印刷.....	18
3.2.1 ロゴ印刷機能を利用するための基本的な流れ.....	18
3.2.2 ロゴデータの生成.....	19
3.2.3 SRL ロゴ印刷の操作手順.....	20
3.2.4 BMP ロゴ印刷の操作手順 .....	21
3.3 複写コピーの印刷とジャーナル .....	22
3.3.1 複写印刷の操作手順.....	22
3.3.2 電子ジャーナルファイル生成手順 .....	23
3.3.3 ジャーナルファイル印刷の操作手順.....	24
4. プリンタ本体の設定 .....	25
5. 注意事項・ドキュメント印刷の際のガイドライン .....	25
6. 改訂履歴 .....	26

## はじめに

- 本ドライバは、Windows 2000/XP/Vista 32bit に対応しています。
- 本ドライバは、Star Raster コマンドセットに準拠しており、Star Raster コマンドを用いて以下の主な機能を実現しています。
  - ・高速なグラフィック印刷
  - ・内部印刷処理の停止を最小限にした高速印刷
  - ・ページ長コントロール（可変長、固定長、ブラックマーク）
  - ・カッター制御
  - ・プレゼンタ制御
  - ・ロゴ印刷、およびパソコン上に保存される Star ラスターロゴファイルの生成
  - ・電子ジャーナル生成・印刷機能付き、高機能複写ページ印刷
- 本ドライバは、基本的にプリンタ本体の設定を工場出荷時のままご利用頂けます。ただし一部機能（ブラックマーク紙対応等）をご利用になる際には、プリンタ本体の設定にも変更が必要となります。詳しくは「4. プリンタ本体の設定」をご参照ください。
- 本ドライバはパラレル I/F、USB I/F での使用に対応しています。

# 1. インストール

## 1.1 USB 以外のインタフェースの場合 (Windows 2000/XP/Vista 32bit)

Windows のプリンタ追加ウィザードを利用してドライバのインストールを行ってください。  
その際、以下の点にご注意ください。

- Windows Vista 32bit をご使用の場合、プリンタの追加ウィザードは「管理者として実行」から行ってください。
- プリンタ機種を選択する段階で、[ ディスク使用 ] をクリックし、“TUP900\_RasterPrtDrvWithstlm\_yyyymmdd.zip” を解凍した任意のフォルダ中の “PrinterDriver\smjtup900R.inf” を指定してください。
- ハードウェアのインストール確認画面が表示されましたら [ 続行 ] をクリックしてください。

プリンタフォルダに < Star TUP992 Raster Printer > または < Star TUP942 Raster Printer > の表示があれば、インストールは正しく完了しています。

## 1.2 USB インタフェースの場合 (Windows 2000/XP)

プリンタの電源を ON するとプラグアンドプレイによりインストールが始まります。  
以下の点に注意してインストールを行ってください。

- インストール方法に、“特定の場所からインストールする” を選択して、“TUP900\_RasterPrtDrvWithstlm\_yyyymmdd.zip” を解凍した任意のフォルダ中の “PrinterDriver” フォルダを指定してください。
- ハードウェアのインストール確認画面が表示されましたら [ 続行 ] をクリックしてください。
- “TUP942.gpd” または “TUP992.gpd” の格納場所を指示する際には、“TUP900\_RasterPrtDrvWithstlm\_yyyymmdd.zip” を解凍した任意のフォルダ中の “PrinterDriver\i386” を指定してください。

プリンタフォルダに < Star TUP992 Raster Printer > または < Star TUP942 Raster Printer > の表示があれば、インストールは正しく完了しています。

## 1.3 USB インタフェースの場合 (Windows Vista 32bit)

プリンタの電源を ON すると、プラグアンドプレイにより自動的にインボックスドライバ <Star TUP900 Presenter(TUP992)> または <Star TUP900 (TUP942)> (:TUP900 シンプルドライバ) がインストールされます。  
プリンタフォルダより、インストールされたシンプルドライバのアイコンを選択して [ 管理者として実行 ] - [ プロパティ ] を開き、「詳細設定」タブの [ 新しいドライバ ] ボタンをクリックすると、プリンタの追加ウィザードが起動します。

以下の点に注意して Star Raster Driver のインストールを行ってください。

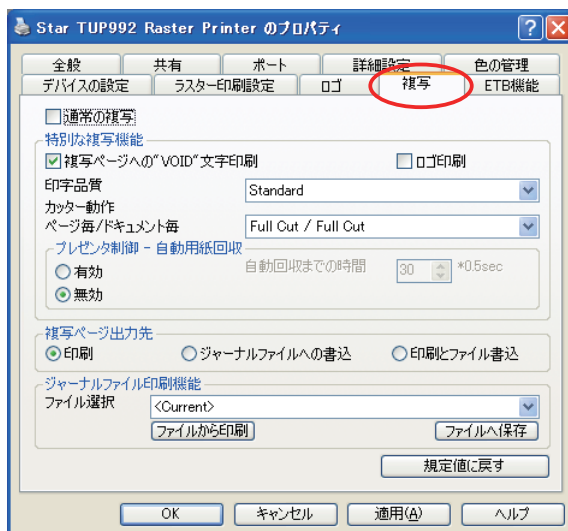
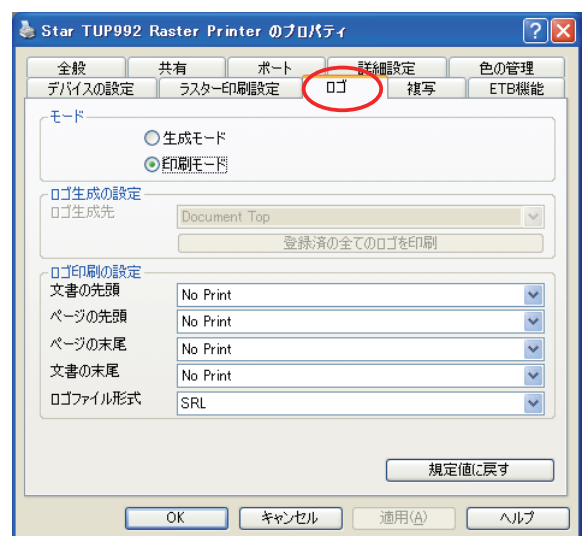
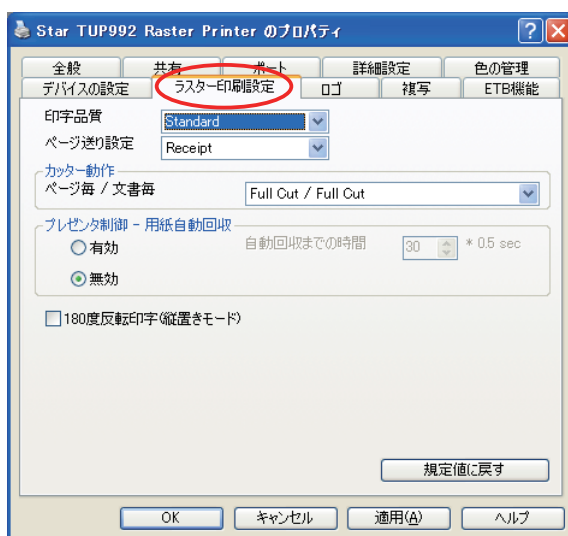
- プリンタ機種を選択する段階で、[ ディスク使用 ] をクリックし、“TUP900\_RasterPrtDrvWithstlm\_yyyymmdd.zip” を解凍した任意のフォルダ中の “PrinterDriver\smjtup900R.inf” を指定してください。
- ウィザードが終了したら、「ドライバ：」欄にインストールした “Star TUP992 Raster Printer” または “Star TUP942 Raster Printer” が表示されていることを確認してプロパティを閉じてください。

プリンタフォルダに < Star TUP992 Raster Printer > または < Star TUP942 Raster Printer > の表示があれば、インストールは正しく完了しています。

## 2. プリンタドライバの設定方法

プリンタドライバのプロパティシートを用いて、様々なドライバの設定を変更することが可能です。プリンタプロパティシートの表示方法は下記の通りです。

1. Windows のプリンタフォルダを開いて下さい。
2. プリンタアイコンを右クリックして、Windows 2000/XP では [ プロパティ ] を、Windows Vista 32bit では [ 管理者として実行 ] - [ プロパティ ] をクリックして下さい。
3. Windows Vista をご使用の場合には、" ユーザアカウント制御画面 " が表示されますので、[ 続行 ] をクリックしてください。



### ※ " 規定値に戻す " ボタンについて

本ドライバでは、いくつかの設定画面に " 規定値に戻す " ボタンがあります。このボタンを利用すると、当該画面での設定値を、デフォルト値に戻すことが出来ます。

## 2.1 ラスター印刷設定

「ラスター印刷設定」プロパティシートでは、プリンタの動作を設定します。  
複写印刷実行時には、オリジナル用紙または 1 枚目の印刷の際のプリンタの動作を設定します。

### ・印字品質

設定値	初期値	概 要
Standard	○	印字品質よりも印字速度を優先します。
High		印字速度と印字品質が中間の設定です。
Best		印字速度は遅くなりますが、最高の印字品質になります。

### ・ページ送り設定

設定値	初期値	概 要
Receipt	○	可変長制御：ページ終端までの余白データは出力しません。
Ticket		固定長制御：ページ終端までの余白データを出力します。
Black Mark		ブラックマークセンサを使用して紙送りを行います。

注記：ブラックマーク機能をご利用になるには、プリンタ本体のメモリスイッチの変更が必要です。

### ・カッター動作 ページ毎 / 文書毎 (TUP942 のみ)

設定値	初期値	概 要
Form Feed / Form Feed		カッター動作および紙送り動作を行いません。
Form Feed / Tear Bar		最終ページのみティアバーまで紙送り動作を行います。
Form Feed / Partial Cut	○	最終ページのみカッター位置まで紙送りしてパーシャルカットします。
Form Feed / Full Cut		最終ページのみカッター位置まで紙送りしてフルカットします。
Form Feed / Full Cut Top Search		先頭ページのみ印刷前に用紙を逆送りして頭出しを行います。 最終ページのみカッター位置まで紙送りしてフルカットします。
Partial Cut No Feed / Partial Cut No Feed		全ページ、用紙送り動作をせずにパーシャルカットします。
Partial Cut / Partial Cut		全ページ、カッター位置まで紙送りしてパーシャルカットします。
Partial Cut No Feed / Full Cut No Feed		最終ページ以外は、紙送り動作をせずにパーシャルカットします。 最終ページは、紙送り動作をせずにフルカットします。
Partial Cut / Full Cut		最終ページ以外は、カッター位置まで紙送りしてパーシャルカットします。 最終ページは、カッター位置まで紙送りしてフルカットします。
Full Cut No Feed / Full Cut No Feed		全ページ、用紙送り動作をせずにフルカットします。
Full Cut / Full Cut		全ページ、カッター位置まで用紙送りしてフルカットします。
Full Cut Top Search / Full Cut Top Search		全ページ、印刷前に用紙を逆送りして頭出しを行います。 全ページカッター位置まで紙送りしてフルカットします。

• カッター動作 ページ毎 / 文書毎 (TUP992 のみ)

設定値	初期値	概 要
Full Cut No Feed / Full Cut No Feed		全ページ、用紙送り動作をせずにフルカットします。
Full Cut / Full Cut	○	全ページ、カッター位置まで用紙送りしてフルカットします。
Full Cut Top Search / Full Cut Top Search		全ページ、印刷前に用紙を逆送りして頭出しを行います。 全ページカッター位置まで紙送りしてフルカットします。

• プレゼンタ制御一用紙自動回収 (TUP992 のみ)

設定値	初期値	概 要
有効		用紙が設定された時間内に引き取られない場合、自動回収を行います。
無効	○	用紙自動回収機能を無効とします。

• 自動回収までの時間 (TUP992 のみ)

設定値	初期値	概 要
1 ~ 255	30 (15 秒)	自動回収までの時間を 設定値 × 0.5 秒に設定します。

• 180 度反転印字

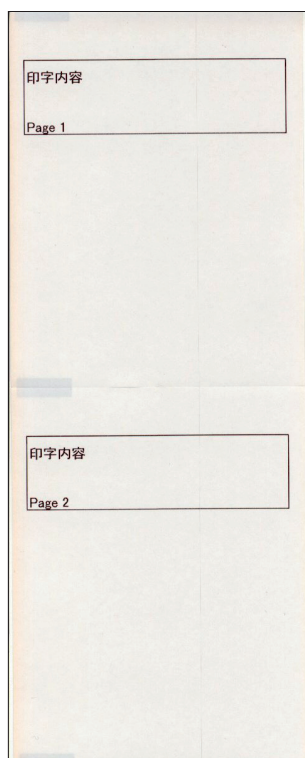
設定値	初期値	概 要
チェック有		180 度反転印字を行う場合はチェックボックスを選択してください。
チェック無	○	通常の印字を行う場合は初期設定でお使いください。

## ■ 180 度反転印字について

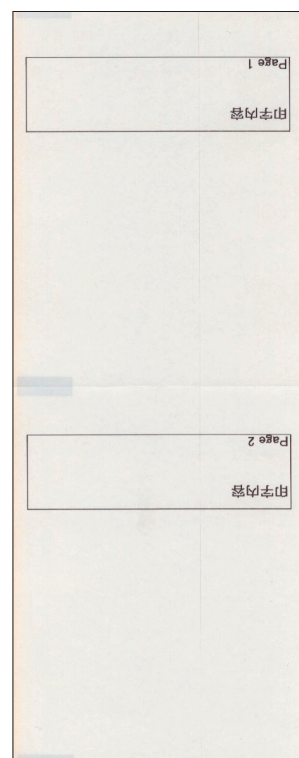
### ・ブラックマーク用紙を使用した印刷

ブラックマーク用紙を使用して 180 度反転印字を行った場合、以下のように印刷されます。

#### 【通常印刷】



#### 【180 度反転印字】

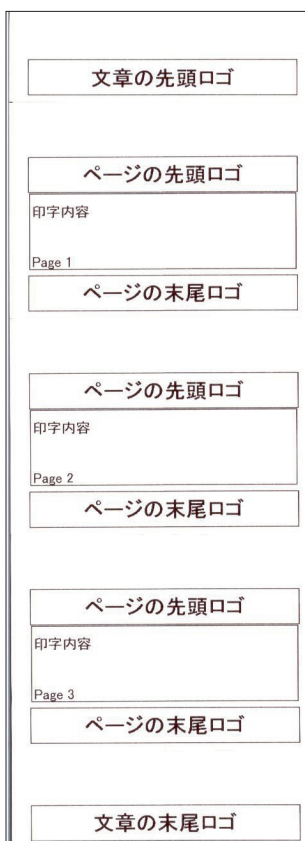


印刷方向

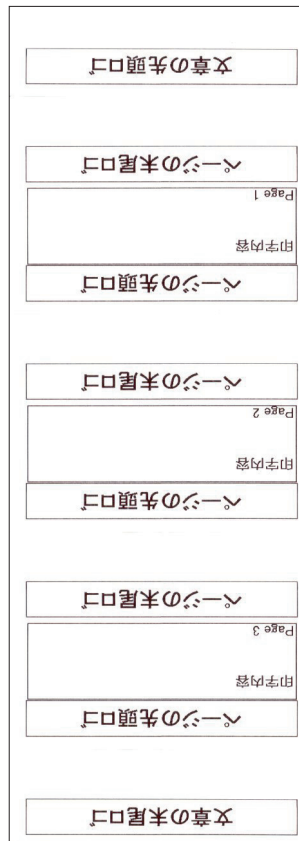
### ・ロゴの印刷

ロゴを付加して 180 度反転印字を行った場合、以下のように印刷されます。

#### 【通常印刷】



#### 【180 度反転印字】



印刷方向



## 2.2 ログの設定

「ログの設定」プロパティシートは、ログの印刷・生成の設定に使用します。ログ印刷に使用するロゴデータは、SRL形式で生成するか、BMP形式のファイルを所定のフォルダに保存することで使用できます。

ログの生成と印刷について詳しくは、「3.2 ログの生成と印刷」をご参照ください。

### ・モード

設定値	初期値	詳 細
生成モード		印刷するジョブの各ページが、ロゴデータファイル（SRL形式）に変換、保存されます。
印刷モード	○	“ログ印刷の設定”の設定内容に従い、印字処理の際にロゴが挿入されます。

### ・ログ生成の設定（SRL形式のみ）

#### ・ログ生成先

設定値	初期値	詳 細
Document Top	○	生成するロゴデータファイルは、文書先頭用ロゴデータのフォルダ内に保存されることにより、文書の先頭タイミング位置用になります。
Page Top		生成するロゴデータファイルは、ページ先頭用ロゴデータのフォルダ内に保存されることにより、ページの先頭タイミング位置用になります。
Page Bottom		生成するロゴデータファイルは、ページ末尾用ロゴデータのフォルダ内に保存されることにより、ページの末尾タイミング位置用になります。
Document Bottom		生成するロゴデータファイルは、文書末尾用ロゴデータのフォルダ内に保存されることにより、文書の末尾タイミング位置用になります。

### ・ログ印刷の設定

#### ・文書の先頭

設定値	初期値	詳 細
No Print	○	文書の先頭タイミング位置では、ロゴは印刷されません。
Sequential		文書の先頭タイミング位置で、ロゴが順番に1つずつ印刷されます。（印刷ジョブごとに順番に次の番号のロゴファイルが使用されます。）
All		文書の先頭タイミング位置で、文書の先頭用に保存された全てのロゴの印刷を行います。

#### ・ページの先頭

設定値	初期値	詳 細
No Print	○	ページの先頭タイミング位置では、ロゴは印刷されません。
Sequential		ページの先頭タイミング位置で、ロゴが順番に1つずつ印刷されます。（印刷ジョブごとに順番に次の番号のロゴファイルが使用されます。）
All		ページの先頭タイミング位置で、ページの先頭用に保存された全てのロゴの印刷を行います。

#### ・ページの末尾

設定値	初期値	詳 細
No Print	○	ページの末尾タイミング位置では、ロゴは印刷されません。
Sequential		ページの末尾タイミング位置で、ロゴが順番に1つずつ印刷されます。（印刷ジョブごとに順番に次の番号のロゴファイルが使用されます。）
All		ページの末尾タイミング位置で、ページの末尾用に保存された全てのロゴの印刷を行います。

• 文書の末尾

設定値	初期値	詳 細
No Print	○	文書の末尾タイミング位置では、ロゴは印刷されません。
Sequential		文書の末尾タイミング位置で、ロゴが順番に1つずつ印刷されます。 (印刷ジョブごとに順番に次の番号のロゴファイルが使用されます。)
All		文書の末尾タイミング位置で、文書の末尾用に保存された全てのロゴの印刷を行います。

• ロゴファイル形式

設定値	初期値	詳 細
SRL	○	ドライバが SRL (Star Raster Logo) 形式のロゴデータファイルを探し、使用します。
BMP		ドライバが BMP 形式のロゴデータファイルを探し、使用します。

注記：SRL 形式と BMP 形式のロゴデータファイルを同時に使用することはできません。

## 2.3 複写

「複写」プロパティシートは、複写ページに関する細かな設定を行います。

ただし複写ページ数については、

- ・プリンタのプロパティダイアログボックス 「全般」 タブの [ 印刷設定 ] - [ 詳細設定 ]

もしくは

- ・アプリケーション側の印刷ダイアログボックスで印刷枚数指定

にて行ってください。印刷枚数に 2 以上の値をセットすると、1 部目に印刷するドキュメントが印刷され、1 部目以降に、複写オプションで指定された内容の印刷を行います。

複写オプションについて詳しくは「3.3 複写コピーの印刷とジャーナル」をご参照ください。

### ・通常の複写

設定値	初期値	概 要
チェック有		複写ページは、オリジナル印刷と全く同じ内容で印刷されます。 (ジャーナル機能は使用できません。)
チェック無	○	複写ページの印刷方法を設定します。

### ・特別な複写機能

- ・複写ページへの "VOID" 文字印刷

設定値	初期値	詳 細
チェック有	○	全ての複写ページの左端に「Second Copy - Void」という文字列が追加印刷されます。
チェック無		「Second Copy - Void」という文字列は印刷されません。

- ・ロゴ印刷：複写ページへのロゴ印刷設定を行います。

設定値	初期値	詳 細
チェック有	○	オリジナル印刷の際に印刷されたロゴが複写ページにも同様に印刷されます。
チェック無		複写ページの印刷時には、オリジナル印刷の際に印刷されたロゴが削除されます。

- ・印字品質：複写ページの印字品質設定を行います。

設定値	初期値	詳 細
Standard	○	印字品質よりも印字速度を優先します。
High		印字速度と印字品質が中間の設定です。
Best		印字速度は遅くなりますが、最高の印字品質になります。

- ・カッター動作 ページ毎 / ドキュメント毎 (TUP942) : 複写ページのカッター動作の設定を行います。

設定値	初期値	概 要
Form Feed / Form Feed		カッター動作および紙送り動作を行いません。
Form Feed / Tear Bar		最終ページのみティアバーまで紙送り動作を行います。
Form Feed / Partial Cut	○	最終ページのみカッター位置まで紙送りしてパーシャルカットします。
Form Feed / Full Cut		最終ページのみカッター位置まで紙送りしてフルカットします。
Form Feed / Full Cut Top Search		先頭ページのみ印刷前に用紙を逆送りして頭出しを行います。 最終ページのみカッター位置まで紙送りしてフルカットします。
Partial Cut No Feed / Partial Cut No Feed		全ページ、用紙送り動作をせずにパーシャルカットします。
Partial Cut / Partial Cut		全ページ、カッター位置まで紙送りしてパーシャルカットします。
Partial Cut No Feed / Full Cut No Feed		最終ページ以外は、紙送り動作をせずにパーシャルカットします。 最終ページは、紙送り動作をせずにフルカットします。
Partial Cut / Full Cut		最終ページ以外は、カッター位置まで紙送りしてパーシャルカットします。 最終ページは、カッター位置まで紙送りしてフルカットします。
Full Cut No Feed / Full Cut No Feed		全ページ、用紙送り動作をせずにフルカットします。
Full Cut / Full Cut		全ページ、カッター位置まで用紙送りしてフルカットします。
Full Cut Top Search / Full Cut Top Search		全ページ、印刷前に用紙を逆送りして頭出しを行います。 全ページカッター位置まで紙送りしてフルカットします。

- ・カッター動作 ページ毎 / ドキュメント毎 (TUP992) : 複写ページのカッター動作の設定を行います。

設定値	初期値	概 要
Full Cut No Feed / Full Cut No Feed		全ページ、用紙送り動作をせずにフルカットします。
Full Cut / Full Cut	○	全ページ、カッター位置まで用紙送りしてフルカットします。
Full Cut Top Search / Full Cut Top Search		全ページ、印刷前に用紙を逆送りして頭出しを行います。 全ページカッター位置まで紙送りしてフルカットします。

- ・プレゼンタ制御一用紙自動回収 (TUP992 のみ) : 複写ページのプレゼンタ動作の設定を行います。

設定値	初期値	概 要
有効		用紙が設定された時間内に引き取られない場合、自動回収を行います。
無効	○	用紙自動回収機能を無効とします。

- ・自動回収までの時間 (TUP992 のみ) : 複写ページのプレゼンタ動作の設定を行います。

設定値	初期値	概 要
1 ~ 255	30 (15 秒)	自動回収までの時間を 設定値 × 0.5 秒に設定します。

## ・複写ページ出力先

設定値	初期値	概 要
印刷	○	全ての複写ページがオリジナル印刷に続いてすぐに印刷されます。
ジャーナルファイルへの書きこみ		全ての複写ページは印刷されず、現在のジャーナルファイル内にデータが追加されます。
印刷とファイル書きこみ		複写ページが 1 部印刷され、現在のジャーナルファイル内にもデータが追加されます。

「複写」プロパティシートの残りの設定は、複写ページの印刷、ジャーナルには使用されません。すでに作成されているジャーナルファイルの印刷と管理に使用されます。以下に説明する項目を使用すると、すでに構築されているジャーナルファイルがすぐに印刷されるなど、直ちに動作します。

## ・ジャーナルファイル印刷機能

### ・ファイル選択

設定値	初期値	詳 細
< Current >	○	追加の操作により現在作成されているジャーナルファイル
< All >		プリンタに関連付けられている全ジャーナルファイル
保存されたファイル		[ ファイルへ保存 ] ボタンで < Current > ジャーナルファイルを別名保存することにより作成された全ジャーナルファイル

**Point!** “ 保存されたファイル ” には、保存したファイルが選択可能な項目として表示されます。  
 < Current > ジャーナルファイルを別名保存するたびに、この項目に新しいファイル名が追加されていきます。

### ・ファイルから印刷

“ ファイル選択 ” で選択したジャーナルファイルがプリンタに出力され印刷されます。

### ・ファイルへ保存

現在のジャーナルファイルを新しいファイル名で保存する「ジャーナルファイルの保存」ダイアログボックスが表示されます。

## 2.4 ETB 機能

「ETB 機能」プロパティシートは、プリンタ内部の ETB カウンタをカウントアップする際に利用します。プリンタは、ETB コマンドが付加されたドキュメントの印刷を完了すると、プリンタ内部の ETB カウンタ（5 bit）をカウントアップします。仮に、ドキュメントの印字データの受信データが全て成功したとしても、ロール紙終端などにより、その印字が完全に行われない場合には、ETB カウンタはカウントアップされません。ETB カウンタの値は、Language Monitor を通して取得できます。このため上位のアプリケーションは、この値を適時監視することにより、発行された重要な伝票データなどが完全に印字できたのかもしくは失敗したのかを知る事ができ、印刷に関して、より信頼性の高いアプリケーションソフトの開発が可能となります。

### • ETB コマンド送信設定

設定値	初期値	概 要
無効	○	ETB コマンドは送信されません。
有効（ETB コマンド送出）		ETB コマンドがドキュメント毎に送信されます。

## 2.5 用紙サイズ

ドライバに予め定義されたサイズの用紙と、ユーザー定義サイズの用紙を利用することが出来ます。  
本ドライバでは、実印字幅を用紙幅として設定してあります。このため、例えば 112mm 幅のロール紙を用いる場合には、104mm 幅の用紙サイズを用いて下さい。

### 2.5.1 定義済み用紙サイズ

ドライバのプロパティ画面より [ デバイスの設定 ] タブをクリックすると、用紙サイズを選択することができます。

以下に、定義済み用紙サイズを記します。

定義済み用紙サイズ	幅	長さ
Full Width 104mm * 75mm - 200mm (5mm 単位)	104 mm	75 mm - 200 mm
Full Width 104mm * A4 Length	104 mm	297.3 mm
Full Width 104mm * Letter Length	104 mm	11 inch
Full Width 104mm * Receipt	104 mm	4,000 mm ( 4 メートル)
80mm * 75mm - 200mm (5mm 単位)	80 mm	75 mm - 200 mm
80mm * A4 Length	80 mm	297.3 mm
80mm * Letter Length	80 mm	11 inch
80mm * Receipt	80 mm	4,000 mm ( 4 メートル)
72mm * 75mm - 200mm (5mm 単位)	72 mm	75 mm - 200 mm
72mm * A4 Length	72 mm	297.3 mm
72mm * Letter Length	72 mm	11 inch
72mm x Receipt	72 mm	4,000 mm ( 4 メートル)
A4	210 mm	297 mm
Letter	8.5 inch	11 inch

※ プレゼンタを使用する場合の最大用紙長は 300mm となります。

注記：104mm 幅以外の用紙を使う場合、プリンタ本体のメモリ SW の設定が必要となります。  
詳細は別冊の製品仕様書をご参照ください。

**Point!** A4・Letter サイズの印刷可能な幅は 104mm です。

これらの用紙サイズをアプリケーションで使用する場合、用紙の右側（または左側）の余白（マージン）に、用紙サイズの幅から 104 mmを引いた値を設定してください。

## 2.5.2 ユーザー定義用紙サイズ

ユーザー定義用紙は、プリンタのサーバープロパティから定義します。

1. Windows の「プリンタと FAX」を開きます。
2. ファイルメニューから、サーバーのプロパティを選択して下さい。
3. “用紙” タブを選択して下さい。
4. “新しい用紙を作成する” をチェックして下さい。
5. “用紙の説明” に、作成する用紙名を入力して下さい。
6. 寸法の単位を選択して下さい。（メートル法 もしくは ヤードポンド法）
7. 用紙サイズを “幅”、“高さ” ともに入力して下さい。
8. “用紙の保存” ボタンを押して下さい。

以下に、本ドライバで定義可能な最大用紙サイズを記します。

幅	長さ
104mm	4,000mm



## 2.6 2色印字、特殊感熱紙などの設定

これらの設定は、印刷設定ダイアログボックスにて行います。このダイアログボックスは、プリンタプロパティの「全般」タブ→[印刷設定]ボタン→「用紙/品質」タブにて表示させることが出来ます。



### ■ 通常モノクロ印刷

通常のサーマル紙を用いてモノクロ色印刷を行う場合には、下記2カ所の設定を行ってください。

- メディア： “Standard Thermal Paper” を選択してください。  
色： “白黒” にチェックをしてください

### ■ カラー印刷（2色サーマル紙への印刷）

2色サーマル紙を用いて2色印刷を行う場合には、下記2カ所の設定を行ってください。

- メディア： “Two Color Thermal Paper” を選択してください。  
色： “カラー” にチェックをしてください

### ■ 特殊用紙への印刷

何らかの理由で通常より濃いモノクロ印字を行いたい場合には、下記2カ所の設定を行ってください。

- メディア： “High Heat Thermal Paper” を選択してください。  
色： “白黒” にチェックをしてください

### 3. 使用方法（補足、詳細）

このセクションでは、レシート、チケット、その他の印刷ジョブを付属のプリンタドライバ経由で印刷するための効率的なデータの作成方法について説明します。Star プリンタをプリンタドライバで使用する際の独自のポイントについて理解しておくことが重要です。

- 用紙

長さ：      ロール紙（正確な長さについては、用紙仕様を参照。）  
幅：         104mm

- 印刷データ

ラスター：      全印刷データはラスタードットイメージデータの形式です。

- デバイスフォント

なし：          付属のプリンタドライバは、デバイスフォントの印刷に対応していません。

- 2 色印刷

対応：          プリンタに 2 色のカラー用紙がセットされている必要があります。

- 余白（マージン）

不要：          付属のプリンタドライバで設定される用紙サイズは全面印刷に対応しているため、  
どの方向にも余白を設定する必要はありません。

注意：本プリンタドライバはプリンタ ROM 内蔵のデバイスフォントの印刷には対応しており  
ません。ラスターグラフィックのみ対応となります。  
もちろん Windows 標準の True-Type フォントを用いての文字の印刷は可能です。

以降のページでは、ドライバの特殊な使用方法について説明します。

## 3.1 ページ／文書のカッター設定

ページ送り設定とカッター動作設定は、プリンタプロパティの「ラスタ印刷設定」タブにて行います。

### 3.1.1 レシート印刷の一般的な設定

印字する行数に応じた用紙送りを行う、いわゆるレシート印刷を行う場合の設定方法を説明します。

ページ送り設定	Receipt
カッター動作： ページ毎 / 文書毎	Form Feed / （右側はいずれの設定でも可）

「カッター動作」の項目では、「文書毎」の方の設定は決まっていません。お使いの用途に応じて最適なカッター動作を選択してください。ただし、「ページ毎」の方には「Form Feed」に設定します。すると、印刷する印字データが、印刷設定にて指定されている用紙長を超える長さとなっても、改ページタイミングでのカットが行われることなく1枚の長い用紙になります。

### 3.1.2 チケット印刷の一般的な設定

印字する内容に関係なく、常に一定の長さの印刷およびカットを行う場合、いわゆるチケット印刷を行う為の設定は、下記の通りです。

ページ送り設定	Ticket
---------	--------

たとえばこの設定を行うと、  
仮に印刷設定にて254mm長の用紙が設定されていて印字データ範囲が用紙先端から200mmまでであった場合、0～200mmの印字データを印字後、 $254\text{mm} - 200\text{mm} = 54\text{mm}$ の用紙フィードが行われ、ページ末尾に54mmの下余白エリアを作ることができます。

### 3.1.3 ブラックマーク用紙での印刷の一般的な設定

ブラックマーク用紙を使用する場合のプリンタドライバの設定は、以下の通りです。

ページ送り設定	Black Mark
---------	------------

ブラックマーク用紙を使用すると、プリンタが用紙のブラックマークを検出し、正確な長さ・位置への用紙フィードを行うことができます。

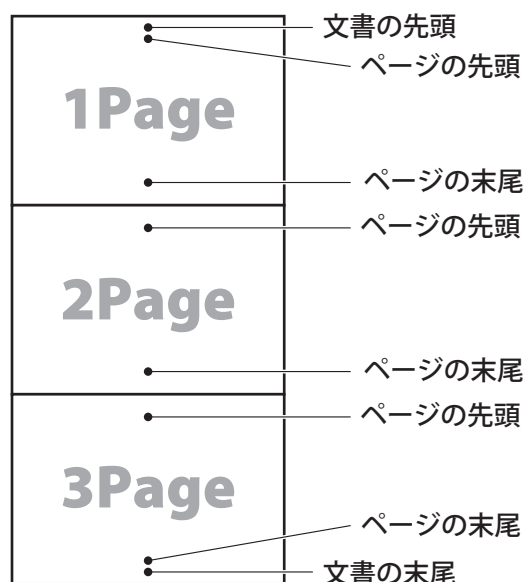
本機能を有効にするためには、メモリスイッチの設定が必要です。メモリスイッチの設定については、「4. プリンタ本体の設定」をご参照ください。

## 3.2 ログの生成と印刷

本ドライバでは、アプリケーションソフトが生成する印字データとは異なる特定の印字パターンを、レシートの先頭などに印字する「ロゴ印刷機能」をサポートしています。

### 3.2.1 ログ印刷機能を利用するための基本的な流れ

- 1 ログパターンをデザインする。  
ロゴデザインに利用するアプリケーションは、プリンタドライバが利用できるものであれば、どのようなソフトウェアでもかまいません。
- 2 ログパターンデータを、パソコンに登録する。  
本ドライバをロゴ生成モードに設定し、ロゴデザインに用いるソフトから印刷を行います。すると、ロゴ用の印字データファイルが自動的に特定のフォルダ（通常このフォルダを意識する必要はありません。詳細な説明については後記を参照ください。）に生成されます。本ドライバで用いるロゴデータは、パソコン上の HDD に生成されるため、ファイルサイズなどの制限はありません。ロゴデータ形式として、スターラスタロゴデータ形式 (SRL フォーマット) と、ビットマップ形式 (BMP フォーマット) の2種類をサポートしています。ただし、本ドライバで生成できるのは SRL 形式のみです。BMP 形式のロゴファイルはロゴ印刷時のみ利用可能です。
- 3 ログ付きの印刷を行う。  
本ドライバをロゴ印刷モード（デフォルトはこちら）に設定し、文章中のどのタイミング（文書先頭 / 末尾、ページ先頭 / 末尾）でロゴを印刷するかを設定します。その後、アプリケーションからレシートなど印刷すると、指定されタイミングでロゴが挿入された印刷が実現されます。



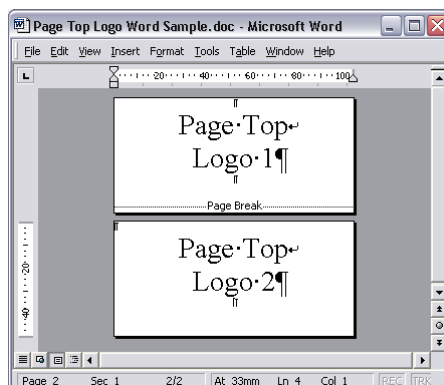
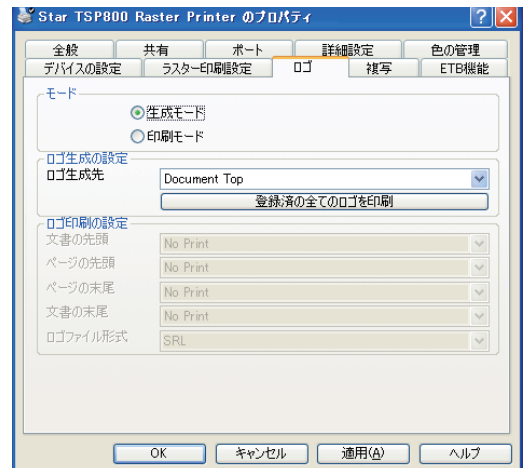
上図の例では、アプリケーションで作成した文書は3ページあります。最初のページの先頭は「文書の先頭」の位置になります。最後のページの末尾は「文書の末尾」の位置になります。これらの2つの位置の間には、各ページの先頭と末尾に「ページの先頭」と「ページの末尾」があります。「ページの先頭」と「ページの末尾」は、各ページで繰り返されています。

### 3.2.2 ログデータの生成

#### ■ SRL ログ生成の設定と操作手順

1. Windows の「プリンタと FAX」フォルダでプリンタドライバのアイコンを右クリックして、Windows 2000/XP では [ プロパティ ] を、Windows Vista では [ 管理者として実行 ]- [ プロパティ ] を選択して、プリンタのプロパティ画面を表示します。
2. 「ログ」タブをクリックして、「ログ」プロパティシートを表示します。
3. 「モード」グループで「生成モード」を選択します。
4. 「ログ生成の設定」グループで、文書中のどのタイミングで印字するログを生成するかのを指定します。例えば、文書先頭印字用のログを生成する場合は「Document Top」を選択します。ページ末尾印字用のログを生成する場合は「Page Bottom」を選択します。
5. 「OK」をクリックし、プリンタドライバのプロパティ画面を閉じます。これでプリンタドライバがログ生成モードに設定されます。この状態で、適当なアプリケーションソフトを用いて印刷を行うと、そのアプリケーションでの印字内容がそのまま指定されたタイミング用のログデータとして、パソコン上に登録されます。ログデータのデザインには、プリンタドライバに対応している全てのアプリケーションソフトが利用可能です。つまりログデータ生成の為の特別なソフトウェアは不要です。
6. ログデータ生成に用いるアプリケーションで、用紙サイズの設定を先ほどプリンタドライバで設定した用紙サイズ（例えば 104mm × 50mm）に設定します。
7. ログデータ生成に用いるアプリケーションでログデータをデザインします。1 ページ内の印字データは 1 つのログデータに変換されます。文書中の同一タイミングで複数種類のログを登録したい場合には、ログデータ生成に用いるアプリケーション上で、複数ページで構成されるデータをデザインしてください。1 ページ目のデータがログ 1、2 ページ目のデータがログ 2、・・・として登録されます。
8. そのファイルを印刷します。ログがプリンタから印刷されると同時に、SRL ログデータのファイル形式でコンピュータの HDD 上に保存されます。
9. 文書内の異なるタイミングにログを生成する場合は、それぞれ手順 1 からの操作を繰り返します。

Microsoft Word を使用した例では、ページ先頭用のログファイルは以下のようになります。



### 3.2.3 SRL ログ印刷の操作手順

SRL ログデータファイルを印刷するためのプリンタドライバの設定方法について説明します。

1. Windows の「プリンタと FAX」フォルダでプリンタドライバのアイコンを右クリックして、Windows 2000/XP では [ プロパティ ] を、Windows Vista では [ 管理者として実行 ]-[ プロパティ ] を選択して、プリンタのプロパティ画面を表示します。
2. 「ロゴ」タブをクリックして、「ロゴ」プロパティシートを表示します。
3. 「モード」グループで「印刷モード」を選択します。
4. 「ロゴ印刷の設定」グループで、文書内の位置（文書の先頭、ページの先頭、ページの末尾、文書の末尾）の 4 項目について設定を選択します。以下は、選択できる設定値についての説明です。

**a. 「文書の先頭」と「文書の末尾」の項目での設定**

- i. No Print  
ロゴが印刷されません。
- ii. Sequential  
生成済みのロゴが 3 種類ある場合に「Sequential」を選択すると、以下のような印刷結果になります。  
ロゴ 1 がジョブ 1 で印刷されます。  
ロゴ 2 がジョブ 2 で印刷されます。  
ロゴ 3 がジョブ 3 で印刷されます。  
ロゴ 1 がジョブ 4 で印刷されます。  
...  
つまり、各印刷ジョブごとに、ロゴが順番に 1 つずつ印刷されます。

**iii. All**

生成済みのすべてのロゴが各印刷ジョブで印刷されます。2 つのロゴがある場合は、以下のような印刷結果になります。  
ロゴ 1 とロゴ 2 がジョブ 1 で印刷されます。  
ロゴ 1 とロゴ 2 がジョブ 2 で印刷されます。  
ロゴ 1 とロゴ 2 がジョブ N で印刷されます。

**b. 「ページの先頭」と「ページの末尾」の項目での設定**

- i. No Print  
ロゴが印刷されません。
- ii. Sequential  
生成済みのロゴが 2 種類あり、印刷ジョブ内に 3 ページある場合に「Sequential」を選択すると、以下のような印刷結果になります。  
ロゴ 1 が 1 ページ目で印刷されます。  
ロゴ 2 が 2 ページ目で印刷されます。  
ロゴ 1 が N ページ目で印刷されます。

各印刷ジョブでロゴ 1 から始まります。  
ページ数と同じ数のロゴの種類がある場合は、各ロゴが 1 回ずつ印刷されます。  
つまり、各ページごとに、ロゴが順番に 1 つずつ印刷されます。

**iii. All**

生成済みのすべてのロゴが各ページで印刷されます。2 つのロゴがある場合は、以下のような印刷結果になります。  
ロゴ 1 とロゴ 2 が 1 ページ目で印刷されます。  
ロゴ 1 とロゴ 2 が 2 ページ目で印刷されます。  
ロゴ 1 とロゴ 2 が N ページ目で印刷されます。

5. 「ロゴ印刷の設定」グループの「ロゴファイル形式」の項目で「SRL」を選択します。
6. レシート等の文書を印刷して、ロゴが印刷ジョブに挿入されるか確認します。

### 3.2.4 BMP ロゴ印刷の操作手順

本ドライバは、ロゴデータとしてオリジナルの SRL（スターロゴフォーマット）以外に、Windows 標準の画像形式の一つであるビットマップ形式（通称：BMP ファイル）を用いる事ができます。ただし、BMP ファイルはロゴの印刷のみ可能で、生成を行うことはできません。

BMP ファイルをロゴデータとして用いる場合、ロゴに用いる BMP ファイルに 0 から始まる連続した数字のファイル名を指定して、下記フォルダに格納してください。本フォルダツリーは手動で作成してもかまいませんが、SRL 形式でのロゴデータ生成を行えば自動的に生成されます。

#### <ロゴデータ登録フォルダツリー>

```
% SystemDrive%
\Star
  \[ プリンタ名 ]
    \StarRasterLogoData
      \StartDoc
      \StartPage
      \EndPage
      \EndDoc
```

% SystemDrive% : Windows の起動 Drive。通常 "C:" となります。  
[ プリンタ名 ] : プリンタ名は、Windows の「プリンタと FAX」フォルダ内に表示されるプリンタキュー名です。

例) Windows 起動 Drive が C ドライブで、「Star TUP942 Raster Printer」のプリンタキューにロゴを登録する場合のフォルダ構成は以下のようになります。

```
C:\Star
  \Star TUP942 Raster Printer
    \StarRasterLogoData
      \StartDoc\0.bmp
      :
```

このフォルダ構成を作成した後に、最下層の 4 つのフォルダ内に BMP ロゴデータファイルを格納します。これらのフォルダ名と「ロゴ」プロパティシート内の項目名は異なりますが、以下の対応表を参考にしてください。

「ロゴ」プロパティシートの項目名	対応するフォルダ名
文書の先頭	StartDoc
ページの先頭	StartPage
ページの末尾	EndPage
文書の末尾	EndDoc

ロゴファイル名には、0 から始まる連続した数字のファイル名 (0.bmp, 1.bmp, ...) を指定してください。0.bmp がロゴ 1 に対応し、1.bmp がロゴ 2 に対応し、n.bmp がロゴ (n+1) に対応します。0.bmp, 1.bmp, 3.bmp のように断続した番号のファイル名を指定した場合には、断続が発生する直前の番号（この例だと、0.bmp と 1.bmp）のファイルが有効なロゴデータとして扱われます。

これらの操作が終わったら、「ロゴ」プロパティシートで「3.2.3 SRL ロゴ印刷の操作手順」での説明と同様に設定します。操作が異なるのは手順 5 のみで、「ロゴファイル形式」の項目で必ず「BMP」を選んでください。



### 3.3 複写コピーの印刷とジャーナル

本ドライバでは、ワイヤードットプリンタの複写紙に相当する機能として、拡張された複写機能をサポートしています。主な機能として、

- ・ プリンタドライバ側だけの設定で、複数部の印刷機能
- ・ さらに、オリジナルページと複写ページの判別を行うための、複写ページへの Secondary Void 文字印刷機能
- ・ 電子ジャーナルファイの生成と印刷機能

があります。

#### 3.3.1 複写印刷の操作手順

1. 各印刷ジョブを n 枚印刷するプリンタドライバの設定方法は、下記のとおりです。

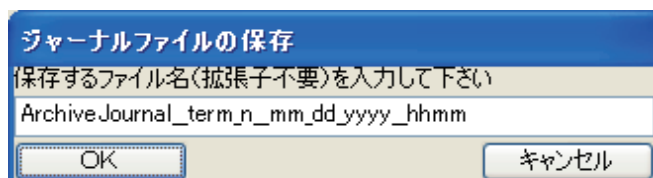
- ① Windows の「プリンタと FAX」フォルダでプリンタドライバのアイコンを右クリックして、Windows 2000/XP では [ プロパティ ] を、Windows Vista では [ 管理者として実行 ] - [ プロパティ ] を選択して、プリンタのプロパティ画面を表示します。
- ② 「全般」プロパティシートを表示し、「印刷設定」ボタンをクリックします。
- ③ 「印刷設定」ダイアログボックスが表示されます。「レイアウト」プロパティシートで「詳細設定」ボタンをクリックします。
- ④ 「詳細オプション」ダイアログボックスが表示されます。オプションツリーの「用紙 / 出力」内で「部数」の項目をクリックします。「部数」の項目に、印刷したい複写枚数を設定します。この項目を 1 に設定すると、全印刷ジョブが 1 枚（オリジナル印刷のみ）印刷されます。この項目を 3 に設定すると、3 枚（オリジナル印刷を含む）印刷されます。
- ⑤ 「詳細オプション」ダイアログボックスと「印刷設定」ダイアログボックスを閉じ、プリンタのプロパティダイアログボックスの「複写」プロパティシートを表示します、
- ⑥ 「複写（プロパティシートの使用方法）」のセクションでの説明にしたがってすべての項目を設定します。
- ⑦ 「複写ページ出力先」グループで「印刷」を選択します。
- ⑧ プリンタのプロパティダイアログボックスを閉じます。

2. レシート用のアプリケーション等から文書を出力し、設定した枚数分印刷されるか確認して下さい。



### 3.3.2 電子ジャーナルファイル生成手順

1. 各印刷ジョブを n 枚印刷するようにプリンタドライバを設定します。
  - ① Windows の「プリンタと FAX」フォルダでプリンタドライバのアイコンを右クリックして、Windows 2000/XP では [ プロパティ ] を、Windows Vista では [ 管理者として実行 ] - [ プロパティ ] を選択して、プリンタのプロパティ画面を表示します。
  - ② 「全般」プロパティシートを表示し、「印刷設定」ボタンをクリックします。
  - ③ 「印刷設定」ダイアログボックスが表示されます。「レイアウト」プロパティシートで「詳細設定」ボタンをクリックします。
  - ④ 「詳細オプション」ダイアログボックスが表示されます。オプションツリーの「用紙 / 出力」内で「部数」の項目をクリックします。「部数」の項目に、印刷したい複写枚数を設定します。この項目を 1 に設定すると、全印刷ジョブが 1 枚（オリジナル印刷のみ）印刷されます。この項目を 3 に設定すると、3 枚（オリジナル印刷を含む）印刷されます。
  - ⑤ 「詳細オプション」ダイアログボックスと「印刷設定」ダイアログボックスを閉じ、プリンタのプロパティダイアログボックスの「複写」プロパティシートを表示します、
  - ⑥ 「複写（プロパティシートの使用方法）」のセクションでの説明のとおりすべての項目を設定します。
  - ⑦ 「複写ページ出力先」グループで「ジャーナルファイルへの書込」を選択します。
  - ⑧ プリンタのプロパティダイアログボックスを閉じます。
2. レシート用のアプリケーション等から文書を出力し、オリジナル印刷のみ行われるか確認します。（複写ページは、すべてハードディスク上の現在のジャーナルファイル内に保存されます。）
3. 新しいジャーナルファイルに変更するまで手順 2 を繰り返します。新しいジャーナルファイルを作成するときは、次の操作に進みます。
4. 現在のジャーナルファイルを新しい名前で保存し、現在のジャーナルファイルをリセットするには、以下の操作を行います。
  - ① Windows の「プリンタと FAX」フォルダでプリンタドライバのアイコンを右クリックして、Windows 2000/XP では [ プロパティ ] を、Windows Vista では [ 管理者として実行 ] - [ プロパティ ] を選択して、プリンタのプロパティ画面を表示します。
  - ② 「複写」プロパティシートを表示します。
  - ③ 「ジャーナルファイル印刷機能」グループで「ファイル選択」リストボックスから「<Current>」を選択します。
  - ④ 「ファイルへ保存」ボタンをクリックします。
  - ⑤ このダイアログボックスで、新しいジャーナルファイルのファイル名を入力します。



- ⑥ 「OK」をクリックして、操作を終了します。
5. 「ジャーナルファイル印刷機能」グループの「ファイル選択」リストボックスから新しいジャーナルファイルのファイル名があるか確認し、正しく保存されていることを確認してください。

### 3.3.3 ジャーナルファイル印刷の操作手順

1. Windows の「プリンタと FAX」フォルダでプリンタドライバのアイコンを右クリックして、Windows 2000/XP では [ プロパティ ] を、Windows Vista では [ 管理者として実行 ] - [ プロパティ ] を選択して、プリンタのプロパティ画面を表示します。
2. 「複写」プロパティシートを表示します。
3. 「ジャーナルファイル印刷機能」グループの「ファイル選択」リストボックスから印刷したいジャーナルファイルを選択します。（すべてのジャーナルファイルを印刷する場合は、「<All>」を選択します。）
4. 「ジャーナルファイル印刷機能」グループの「ファイルから印刷」ボタンをクリックし、選択したジャーナルファイルが印刷されるか確認します。

## 4. プリンタ本体の設定

TUP900 プリンタでブラックマーク用紙を使用する場合には、“メモリスイッチ”の設定を変更する必要があります。

- ・ブラックマーク用紙を使用する場合には、メモリスイッチ 1：MSW1-8 を "1" に設定してください。
- ・ブラックマーク用紙をフルカットで使用の際、バックフィード（頭出し）機能を有効にするにはメモリスイッチ 1：MSW1-9 を "1" に設定してください。
- ・バックフィード（頭出し）機能はフルカットとの組み合わせで有効となります。

メモリスイッチ 1 (MSW1)	機 能	ON : 1	OFF : 0 (工場出荷時初期値)
8	ブラックマークセンサ機能	有効	無効
9	バックフィード機能	有効	無効

ただし、本ドライバは基本的にプリンタが工場出荷時の設定となっているときに正しく機能するようにデザインされています。このため、必要の無い限りこれらの設定を変更しないようにして下さい。

## 5. 注意事項・ドキュメント印刷の際のガイドライン

- ・ プリンタのメモリスイッチおよびディップスイッチの設定内容によりドライバが正常に動作しない場合があります。本マニュアルに設定の変更指示がある場合を除き、工場出荷時の設定に戻してご使用ください。
- ・ 本ドライバでは、用紙の余白設定は不要です。マージンは全て "0" に設定してご使用ください。
- ・ 本ドライバでは、ドライバに組み込みの定義済み用紙サイズと、ユーザー定義サイズをサポートしています。必要に応じて、ユーザー定義サイズを作成してください。
- ・ ユーザー定義用紙の設定はプリンタフォルダの「ファイル」メニューの“サーバーのプロパティ”ダイアログより行います。また、用紙を設定する場合、用紙サイズ幅の値はプリンタで使用可能な用紙の印字幅を設定してください。

## 6. 改訂履歷

[illegible]



**特機事業部**

〒424-0066

静岡県静岡市清水区七ツ新屋 536

電話：054-347-0112 ( 営業直通 )

<http://www.star-m.jp/dl/dl02.htm>